

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177500204		
法人名	たきかわ介護福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホーム ともだちの家 ユニット I		
所在地	滝川市西町2丁目3番47号		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成30年12月4日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.hlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail.2018.022_kan=true&JigyosyoCd=0177500204-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年11月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いきいき百歳体操や認知症カフェ実施し、地域との交流を大切にしています。ホーム内を生活に保ち、笑顔を忘れず安心して暮らせるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR滝川駅から徒歩15分ほどの住宅地にある平屋建て2ユニットのグループホームである。周辺には3世代交流センター、公園、病院などがあり、利便性が高い。建物はそれぞれのユニットが渡り廊下でつながり、渡り廊下の玄関側はカーポート、裏側は庭や畑になっている。共用空間は広く、テーブルやソファを少し離して配置し、利用者が好きな場所でゆったりと過ごすことができる。品のよい絵画や利用者、ボランティアの作品、写真などを飾り、温かい雰囲気となっている。職員は利用者に優しく接し、利用者職員、利用者同士の会話が深い。また、週1回、地域の方が20名程、事業所を訪れ「いきいき百歳体操」を利用者と一緒に行き交わっている。事業所の認知症カフェの他、近隣の認知症カフェでも住民と交流している。ケアマネジメントの面では、基本情報シート、アセスメントシートなど利用者の情報を定期的に整備している。介護計画は適切に見直しを行い、見直し時の書類も整っている。食事の面では、彩りや味付けのよい家庭的な食事が提供され、食事の際は音楽やラジオの音量を調整し、会話を楽しんでいる。排泄や入浴、外出支援の面でも、利用者のできることを尊重しながら、個々にあった支援を行っている。快適な環境で地域と交流しながら過ごすことのできるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念は常に目につく壁に貼り、毎朝の申し送りの前に唱和して理念の共有し、実践につながるよう努力しています。	5項目の運営理念の中で「住み慣れたこのまちで、お互いさまの心を持ち続ける」と掲げ、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を見やすい場所に掲示し、毎朝唱和して共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内行事に参加の他、いきいき百歳体操の会場として開放し、認知症カフェなど、地域交流に努めている。	週1回、地域の方が20名程、事業所を訪れ「いきいき百歳体操」を利用者と一緒に行っている。地域の文化祭や運動会、敬老会などに利用者が参加している。事業所の認知症カフェの他、近隣の認知症カフェにも通い、住民と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れ、お祭りや認知症カフェの開催など理解を深めていただけるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、利用者様を交えて会議を行い、サービスの向上に活かしている。	会議を2か月ごとに開催し、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員などの参加を得ている。家族の参加は行事に合わせて年1回となっている。介護保険制度や防災、外部評価などをテーマに意見交換し、議事録を家族に送付している。	年間を通して家族の参加が得られるよう、継続的な働きかけを期待したい。参加が難しい場合は、運営や会議テーマに関する意見を事前に家族に聞き、会議に取り上げることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の会議や研修会に参加し、多方面から情報を取り入れる様にし、協力関係を築く様に取り組んでいる。	運営推進会議に地域包括支援センター職員の参加があり情報提供を受けている。相談事があれば管理者が市に直接出向いている。市の委託を受け、月1回、認知症カフェを開設している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束、虐待防止研修に参加し、理解に努め、身体拘束のないケアに努めています。	身体拘束を行っておらず、禁止の対象となる具体的な行為を記したマニュアルと指針を整備し、定期的指針の確認や内部研修を行っている。今後は身体拘束に係る委員会の記録も整備していく意向である。玄関は日中施錠せず、利用者の出入りがあればセンサー音で分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止研修に参加して学ぶ機会を持ち、事業所内での虐待が		

グループホーム ともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点では活用されている利用者はいないが、必要のある場合はその都度支援につなげたい。スタッフ会議でも取り上げ、知識を深めて行きたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にホーム見学していただいている。契約の際も十分な説明を行い理解、納得を得る様にしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン説明時や日頃の会話から意見や要望を伺い、把握する様にし、運営に反映させられるようにしている。	家族の面会時や介護計画を説明する際などに意見を聞き、得られた意見を介護記録や連絡ノートに記録している。さらに振り返りしやすい記録の工夫を検討している。毎月、利用者の様子を個人ごとに記したお便りを家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議やスタッフ会議で要望、意見を聞く機会もあり、運営に反映させられるよう努力している。	月1回のユニット会議と2か月に1度全体会議を行い、活発に意見交換している。職員は随時、管理者やリーダーに個別に相談することができる。職員は様々な業務を分担して行い、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の勤務状況を把握し、実績などを考慮している。休み希望などシフト対応し、働きやすい環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合わせた研修の機会があり、研修で得た知識をスタッフ間で共有し、意欲向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームとの合同研修会やお祭りでの交流など機会を作り、サービス向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前情報などを活用し、本人の情報の把握に努め、不安や要望に耳を傾けてコミュニケーションを図り、安心できる様に関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始後は日常の様子を報告し、良い関係づくりに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面談でよく話を聴き、必要に応じて柔軟に対応できるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お互い様の気持ちを忘れずにできること、出来ない事を把握し、他の利用者も交えて助け合う関係を築ける様に努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃の様子を伝えて本人と家族との絆を大切にしながら協力し合える関係づくりに努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や関係性が途切れない様にご家族の協力も踏まえて支援に努めています。	3～4名の利用者に近所に住んでいた知人や宗教関係の友人、習い事仲間などが来訪している。職員と近くの美容院に通い、馴染みの場所になった方や認知症カフェで馴染みの友人ができた方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の人間関係の把握に努めて、食事テーブル席や行事など自然な関係が保たれるように努めています。		

グループホーム ともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後に外出先などで会う事があればご挨拶をして近況などを聞く事もあります。必要に応じて相談など対応に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で暮らしの様子、思いや願を把握するようにし、カンファレンスを通して検討している。	ほとんどの利用者は言葉で思いや意向を表出でき、難しい方も問いかけの返事や反応から把握している。基本情報シートを作成し、3か月ごとにアセスメントシートを更新して情報を整備している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートを参考にし本人のペースを守れるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタル測定その他、生活や心身状態を記録して情報の共有に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	記録を元に本人にとってより良いケアの在り方など話し合い、家族の意見も加味して介護計画を作製できるよう努めています。	モニタリングシートをもとにカンファレンスを行い、3か月ごとに介護計画を更新している。モニタリングシートの評価の記入がさらにわかりやすくなるよう見直しを進めている。日々の記録は計画目標の番号・記号を記入しながら作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づき等を記録し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の状況変化に可能な限り、柔軟にサービス対応できるように取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会行事や市や他施設の催しに参加したりして豊かな暮らしを楽しめる様に努力しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診ノートを活かしてかかりつけ医を継続利用できるように家族と協力しながら支援しています。	利用者は元々のかかりつけ医を通院で受診している。通院は家族および職員、または有償ボランティアの支援で行っている。個々のバイタル表に受診内容と健康状態を詳しく記録している。	

グループホーム ともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと契約し、週一度の訪問時に状況を伝え協働しています。訪問の他24時間電話相談もあり、活用しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに介護添書にて情報提供し、入院中はお見舞いを兼ねて本人の状況確認し、病院関係者とも関係づくりを意識している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に向け、本人の変化の時に都度ご家族と相談、情報共有していき、事業所でする事説明しながら次の段階へとつなげています。	利用開始時に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明して同意を得ている。24時間対応可能な医師が確保できていないため現在は事業所での看取りを行っていないが、家族の納得を得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、定期的な救命講習を受講し、急変時の実践力を身に付けられるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練実施し、その際は火事に問わず水害など災害について消防職員から学ぶ様にしている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行い、消防署や地域住民の協力を得ている。災害時に必要な備蓄品の準備を行い、職員は救急救命訓練を受講している。一方、地震や水害等への対応に関するマニュアルは未作成である。	地震や水害、停電等、火災以外の対応について分かりやすいマニュアルを整備し、定期的に確認の場を持つことと、施設内の危険箇所やケア場面ごとの対応に関して確認しておくことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた声掛けや態度を意識して一人ひとりの人格やプライバシーに配慮している。	外部研修で接遇を学び、言葉遣いや対応を話し合い、笑顔で丁寧に話しかけている。申し送りなどは離れた場所で行い、記録類も適切に管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で本人の思いや希望を表したり、自己決定できるように伺いながら対応するように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間などおおまかな一日の流れはあるが、個々のペースに合わせて過ごせるように配慮しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	好みの服やアクセサリなど楽しめる様にしているが、介助が必要な方には本人の意向をくみ取りながら対応している。		

グループホーム ともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事準備や片づけなどは出来る利用者様にしていただき、職員も一緒に席に着き落ち着いた雰囲気の中で食事され、会話も弾みます。	発注した食材を見て、ユニットごと別メニューで食事を作っている。誕生日には外食を中心に好みの料理でお祝いしている。「お食事レクリエーション」の食事作りには、利用者も参加して楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	持病を考慮して、提供している。一日の水分量も記録して健康維持に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし個々に合わせて介助しています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄リズムを掴むように努め、時間ごとの声掛けや介助、また夜間のみパット使用など支援している。	バイタル表などに排泄の回数や状態を記録し、昼夜間ともトイレでの排泄を支援している。半数は自力で排泄ができ、布下着とパッドで過ごす方も多い。間隔を見て羞恥心に配慮しながら声かけや誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量を把握し、乳製品などを取り入れ、便秘改善につながる様に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本3日に1度ペースでの声掛けですが、午前、午後と大まかに時間を決め、可能な限り希望に添える様に配慮しています。	毎日入浴が可能で、利用者の希望や体力などを見て午前や午後の時間帯に入浴を支援している。同性介助や入浴を拒むなど、個々の意向に沿って対応している。利用者は湯船に入り、職員との会話や音楽を聞いて気持ちよく入っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や早めに就寝など一人ひとりの生活習慣や状況に応じて休息したり、安心して眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容はいつでも見られる様にして、服薬チェックシートを活用し服薬支援に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意分野や嗜好を把握し、その日の体調などに合わせて楽しめる様に支援しています。		

グループホーム ともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットI)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調や職員状況により左右されるが、近くの公園などの散歩はできるだけ添うようにしている。またご家族の協力を得ながら行きたい所へ出かけられる様に支援している。	近くの公園を散歩し、駐車場で日光浴や焼肉をして外気に触れている。誕生日プレゼントなどの買い物もある。桜や菜の花を見学し、地域行事の参加で外出の機会が多い。冬期は通院の他、駐車場に飾った「紙袋ランタン」を窓から見て季節を感じている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金は事務所管理しているが、出かけた時などは好きな物が帰るように配慮はしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人より電話希望あれば対応可能。手紙などの希望あれば支援します。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には皆の作品を飾ったり季節ごとの装飾、調理音など不快のないように配慮し明るい雰囲気作りを努めています。	職員が執務する場と台所などの居間は一体的な造りで開放感がある。食卓テーブルとゆったり座れるソファを数か所配置している。壁には月ごとの行事写真や習字、色紙細工の作品が飾ってある。またボランティアの絵が彩りを添え、全体的に温かな共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ベンチやソファーなど配置し、音楽を聴いたり、おしゃべりしたり、一人になれる空間づくりに配慮しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物、好みの物を自由に配置していただき、安心して過ごして頂ける様に配慮しています。	ユニットによって広さは若干違うが、大きめのクローゼットが備えてあり、テレビ、仏壇、タンス、鏡台、家具や小物類などが持ち込まれている。本人の以前の写真や好きな動物、歌手、趣味などを飾りその人らしい居室づくりになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレなどの場所の表記、手すり設置などして安全に自立した生活が送れるよう工夫しています。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0177500204		
法人名	たきかわ介護福祉サービス株式会社		
事業所名	グループホーム ともだちの家 ユニットⅡ		
所在地	滝川市西町2丁目3番47号		
自己評価作成日	平成30年11月1日	評価結果市町村受理日	平成30年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

いきいき百歳体操の会場、認知症カフェなどを通して地域の人達と交流ができて、風通しの良く家庭らしい環境と雰囲気づくりに努めています。
個々の生活リズムに合った支援をして、笑顔いっぱいの毎日が送れるようにしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=0177500204-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成30年11月21日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送りで理念を唱和し、実践へつなげられるように意識づけしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	いきいき百歳体操の会場として地域に開放している。又認知症カフェを開催し交流の場としても活用している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生の受け入れや認知症カフェなどで実際にみていただいて、理解の場を設けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回利用者も交えて開催し、意見のくみ取りやサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村主催の会議や研修会には参加し、顔なじみの関係を築く努力をし、連携をとれるように取り組んでいます。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関センサー設置して拘束にならないように配慮している。禁止の具体的な行為も貼り出しており、いつでも見られるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修会には参加し、会議にてフィードバックして学ぶ機会を持っている。		

グループホーム ともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度利用している利用者はいますので、後見人とは連携しています。研修があれば、学ぶ機会を持つようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に見学などしていただき、不安や疑問を解消できるように努め、理解、納得のうえ、契約している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など何気ない会話から意見をくみ取れるように努力している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議などで意見交換の場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト調整など、出来る限り要望に沿うようにして働きやすい環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に合わせて研修の機会を確保し、発表の場を作ったりして、働きながらとトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設開催のお祭り参加や、合同研修会などを通じて交流する機会やネットワーク作りの取り組みをしている。		

グループホーム ともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、利用者の様子などの把握をし、安心できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者の様子を見ながら、ご家族の意見に耳を傾け、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実際の様子と照らし合わせて家族と相談しながら、柔軟に対応できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯や掃除などの日常生活において一緒に作業する事を心掛け、支え合う関係を築ける様努力しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や毎月のお便りで本人の様子を伝えつつ家族の想いに耳を傾け、信頼関係を築ける様努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な範囲で行えるように努めており、関係が途切れないよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わり合いを日々記録し、様子を見てトラブルならぬよう間に入り、良い関係を維持できるように努めています。		

グループホーム ともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後は会う機会はないが、偶然会った時などは近況を聞いたり、相談があれば乗るように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の様子を記録したり、何気ない会話の中で把握するように心がけ、カンファレンス等で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートや家族からの情報を照らし合わせて把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの日々の様子を記録し、現状の把握につとめています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを開催して、本人、家族の意向を話し合い、介護計画を作製している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を個別記録して、業務日誌も活用して、職員間で情報共有できるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々ニーズに柔軟に対応できるように、日頃から関係づくりに取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内行事などには参加したり、体操会場としてホームに来ていただいたりして、楽しめるよう配慮しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後もかかりつけ医を利用いただき、受診の際には情報提供して、適切に医療を受けられる様支援しています。		

グループホーム ともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションを契約し、24時間電話相談体制を整え、支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに介護添書にて情報提供し、入院中も面会し、情報交換できるように努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	少しずつ低下していく中でその時々でご家族と話し合い、情報共有できるように努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し、定期的に救命講習の訓練を受け、実践力を身に付けられるようにしています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の際には町内会の方にも見ていただき、他施設との協定もあります。		

Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには気を付け、内容によっては声の大きさを変えて配慮しています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛けの内容を工夫して、気持ちを表せたり自己決定できるように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人のペースを大切にして、水分不足など、健康に影響が出ない事以外は個人のペースに合わせています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時に服を選んで頂いたり、季節に合わせて衣替えを支援しています。		

グループホーム ともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	米とぎ、テーブル拭きなど、それぞれの出来る事を分担して取り組める様にしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量のチェックの他、必要に応じて食事もチェックし、確保できる様に取り組んでいます。本人の状態に応じて食事形態も工夫しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け見守りし、本人の能力に合わせて介助して清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分量、排泄間隔を記録し、パターンの把握に努めて声掛けしたり、使用用具検討し支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトなどの乳製品や水分量など工夫に努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前と午後と大まかに時間を分けて声掛けして入浴支援して、声掛けに拒否があったりした場合は翌日にしたりして、無理な入浴は避ける様に努めています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠時間を記録して、夜間の睡眠に影響しない範囲で自由に休していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬シート活用し、薬の理解に努めている。服薬支援もチェックボードにて確認し、配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	新聞、おりがみ、塗り絵など、個々に合わせて楽しめるよう配慮しています。		

グループホーム ともだちの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ユニットⅡ)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る範囲で散歩や他施設開催の認知症カフェなど支援。ご家族の協力を得て散歩など行う事もありました。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は事務所管理しているが、外出時などお金を使う機会があれば支援しています。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話、手紙など支援しています。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	クーラーや加湿器など活用して、室温調整に配慮しています。レクリエーション作品なども飾り、季節感を取り入れられる様にしています。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングや廊下にソファやベンチを配置して、人の気配を感じながら過ごせる場所づくりの工夫している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族と相談しながら、本人の健康や身体状況に応じて居室内環境作りに努めています。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにして、安全で自立した生活が送れるように配慮し、何かあれば検討し、都度配膳に努めています。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム ともだちの家

作成日：平成 30年 12月 3日

市町村受理日：平成 30年 12月 4日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	ともだちの家便りなどで運営推進会議の開催、参加のお知らせはしているが、ご家族の会議参加にまでは至っていない。	運営推進会議に家族の参加が得られるようにしたい。また、参加が難しい場合には、事前に意見を聴きとれるようにしていきたい。	この外部評価の報告でくわしく運営推進会議の事を取り上げて家族にもっと周知していきたい。会議参加が難しい場合には、会議テーマについて家族に意見が聞ける様にアンケートなどを配布してみる。	1年
2	35	従来の非常災害対策マニュアルしか整備されていないので、要配慮者利用施設に係る避難確保計画の水害などの点での作成も必要である。	火事などの避難訓練だけでなく、水害や地震などの内容も整備した非常災害対策マニュアルを整備していく。	滝川市役所の担当者とも相談しながら、マニュアルの整備をしていく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。